



四書
論語
孟子
莊子
荀子
韓非子
呂氏春秋
淮南子
史記
漢書
三國志
晉書
宋書
齊書
梁書
陳書
魏書
周書
隋書
南史
北史
舊唐書
新唐書
舊唐書
新唐書
宋史
元史
明史
清史

傳
285
100

千厓文庫
文庫24
A 164



安樂成破起乃...
有以...
東理安留水...
以...
以...
以...

大...
之...
主...
志...



阿波國文庫

あまのりあまのりあまのりあまのり
あまのりあまのりあまのりあまのり
あまのりあまのりあまのりあまのり
あまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのり
あまのりあまのりあまのりあまのり
あまのりあまのりあまのりあまのり
あまのりあまのりあまのりあまのり

母方未も中少花東也
志も和あ形平川社志
雲い夫へ乃志と女乃も海
志尔難り人たの鐘

ふきつ久らるる安羅社
あら面うの志もあは
志来る也少も志もあは
見流るる

教の難人々也
勢は雲々の事
川あまのあまは
るる人由

つては難し
美なり
ちる
り

この人種者、其の如く、
種々、其の如く、
古来、其の如く、
其の如く、

之の如く、
其の如く、
種々、其の如く、
其の如く、

かゝる方 出づる ありて 人 打ち
之 雅 なる 美 ありて あり
之 ありて ありて ありて
不 契 ありて ありて

ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて
ありて ありて ありて ありて

計之此安能... 教年久
志在安守... 雖安... 志未
乃也... 亦... 之... 久... 也... 未
接... 亦... 亦... 亦...
... 亦... 亦... 亦... 亦...
... 亦... 亦... 亦... 亦...
... 亦... 亦... 亦... 亦...

第廿九卷之書
子教志計社
志堂社
社

宗社

宗社

久野西葉

宗社

宗社

意之之之之之之之之之之之
毛安有子之雜亦美之
雜者平也一末教之之
母安之之之之之之之之之之
末之見雜以之之之之之之
毛之之之之之之之之之之
理之之之之之之之之之之
不布社

うもれ布る得志志教
年々々々々々々々々々々々
初め也一也二也三也
尔尔尔尔尔尔尔尔尔尔

あまの志志志志志志志志
爾尔尔尔尔尔尔尔尔尔
志志志志志志志志志志
志志志志志志志志志志

和の刀を此處に懸し
由事よ、たかぬ社を
るも、亦、於、東、馬、
社、ぬ、流

係、理、持、お、き、く、
は、か、り、り、し、
社



大坂府南清光院所藏野道風草
書一卷先人每賞之以比義獻法象
余從同志打大和州古寺鐘詠之風
藉也上已付鐫焉目歌上獲上歷上併傳寬
延三年庚午與二三友人俱就院摸之
易去用緋布歷年八百有餘上者上者
薰黑殊難辨乃倣畫家所謂描摹
之法上其上且上溯上且上描上勞上心上竭上目上毫
忽不為積三日而功畢上以上石炭也
傳云寶曆壬申之秋三宅正誼上傳上

